

テクノロジーと法の未来へ

Vol.39

FACULTY OF
GLOBAL INFORMATICS

国際社会が抱える問題を「情報の仕組み」と「情報の法学」の視点で分析・解明し、解決策を論理的に構築する、iTL独自の学びに迫ります。

短期留学から長期留学へ

私は3年次後期の間、イギリスのマンチェスター大学へ1セメスターの交換留学へ行きました。2年次の夏休み期間中に、国際情報学部の短期留学である「ICT留学」へ行ったことをきっかけに、「もっとと長期間、海外で生活してみたい」「海外の大学で本格的に勉強してみたい」と思うようになり、交換留学を決意しました。今回は、私のイギリス現地での生活や、学んだことについて紹介させていただきます。



国際情報学部国際情報学科4年
私立東京女子大学高等学校(東京都)出身

おおの あやね
大野 彩寧

学びと出会いが広げた世界 —マンチェスターでの5カ月間

多国籍な環境での学び

マンチェスター大学は長い歴史を持ち、イギリスの名門大学24校で構成されるラッセルグループのうちの1校です。総学生数は約4万人、留学生も1万人程度いる多国籍な大学です。私は、マンチェスター大学の研究や教育の質の高さ、多国籍な環境に魅力を感じ、留学先を選びました。

留学中は、国際情報学部の学びと関連の深いDigital Humanitiesを専攻しました。また、マンチェスター大学には400ものsociety(サークル)があり、私はInternational Societyなどを含む4つのsocietyに所属していました。

マンチェスターの街は比較的小柄な大学で暮らしやすいです。大学の寮から大学までは徒歩約30分、空港までは車で約20分とアクセスが良く、大学からシティへも徒歩30分ほどで行くことができます。そのため、授業後には友人とカフェに寄っ

たり、買い物を楽しんだりするなど、充実した時間を過ごすことができました。

学業と私生活の両立

マンチェスター大学では人文学部のデジタル人文学科で学び、データリテラシーの授業に加えて、メディアやデジタル社会が抱える課題について学びました。各授業は1時間のレクチャーと2時間のセミナーで構成され、少人数制のセミナーでは毎回ディスカッションやミニプレゼンを行いました。毎週課されるリーディングは、各科目20ページ以上に及び、予習には多くの時間を費やしました。留



マンチェスター大学の前にて



カレーマイルで友人家族とディナー

学当初は、十分に予習・復習をしても、授業に付いていくのに精一杯でした。しかし、マンチェスター大学の学生の意識の高さに刺激を受け、私自身も授業では前方の席に座り、積極的に発言をすることを心掛けました。その結果、現地学生とのディスカッションにも自信を持って参加できるようになり、グループプレゼンも成功させることができました。さらに、セミナーでのミニプレゼンでは高い評価を得られたこともありました。

一方で、学業だけでなく、私生活も非常に充実したものでありました。寮のフラットメイトはイギリス人とギリシャ人で、夕食を共にしたり、フラットの共有スペースでお互いの近況を話したりと、楽しい時間を過ごしました。また、フィンランド人と中国人の友人とも親しくなり、手巻き寿司パーティーをしたり、寮の近くにあるカレーマイルを訪れたりするなど、多くの思い出をつくることができました。友達づくりは、私が留学前に



ロンドンでの年越し花火



マンチェスターのクリスマスマーケット

ションを取ろうとする姿勢を示すことで、相手も真摯に耳を傾けてくれました。また、日本で生活しているだけでは気付かなかったことも、視点を変えて物事を捉

えることで発見することができました。今回のマンチェスター留学で得た経験と学びを、これから先の人生でも存分に活かしていきたいです。

最も不安に感じていたことでした。しかし、自室にこもり過ぎず、寮のイベントやアクティビティに積極的に参加したことで、初日から友人をつくることができました。また、買い物や外出に誘われた際にはできる限り参加し、何事も経験してみようことを大事にしていました。留学生である私は、授業の予習・復習には現地学生以上の時間を費やす必要がありました。それでも、毎日計画を立ててタイムマネジメントをしっかりとすることで、授業と私生活のバランスを保ち、充実した留学生活を送ることができました。

現地で得た学びと成長

マンチェスターでの留学の間、寮や大学でたくさんの人たちと関わる中で、*bad year*、という言葉を何度も耳にしました。*bad year*とは学生が大学入学前や在学中に一時的な休学期間を設け、学外での多様な経験を積むための期間です。イギ

リスでは特に一般的で、私の周りにも*bad year*を経験した学生が数多くいました。そうした友人たちとの交流を通して、私は人生において大事なことは、決められたルールを急いで進むことよりも自分が本当に好きなことを見つけ、それと真剣に向き合うことなのだと気付きました。忙しく過ぎていく日々の中では見落としがちな価値観に触れられたことは、私にとって大きな収穫でした。

マンチェスターへの留学は私にとって大学生活最大の挑戦でした。当初は不安でいっぱいでしたが、周囲の支えもあり、結果的にはとても有意義な5カ月間を過ごすことができました。この1セメスターの留学を通して実感したのは、みずから行動し、積極的に挑戦を重ね、何事も諦めないことの大切さです。言語の違いからミスコミュニケーションが生じることもありました。それでも、伝えることを諦めず、みずから積極的にコミュニケー

